

『 日本人が世界に向けて発信すべきもの 』

近年、大量生産、大量消費の時代がこのまま進めば自然や地球の破壊が進み人類の生存を脅かすようになると考えている人が多くなっているのではないだろうか。東日本大震災の後、いまさらながら自然の力の大きさ、人間の知恵、科学の限界を人々は思い知らされた。

江戸時代のような自然との共生を図り、循環型社会を作っていかなければならない時代が訪れている。

戦後、日本は軍国主義から民主主義国家になったが、得たものも多かったが、失ったものも多い。

個人主義が発達し、家族主義が崩壊した。その結果、親の死後、本来最も親しく、助け合っていたいかならない肉親で相続争いが頻発するようになった。

学校教育から道德教育（修身教育）をはずした結果、学校の先生や親を敬うといった教育の基本が疎かになった。受験教育に偏り、社会人としての教育が出来ていないため、社会に出てから再教育をしなければならなくなった。医師としての人格も出来ていない人が医師になっているのがしばしば見かけられる。患者や同僚、コメディカルの人とのコミュニケーションがうまくいかず、しばしばトラブルとなる。

畳文化は椅子文化になり生活様式が変わった。その結果、布団の毎日の上げ下ろし、床からの立ち上がりがなくなり、足腰が弱くなり腰痛が頻発するようになった。

トイレは日本古来の男女別のものがその区別の無い西洋式トイレになったため、男性の女性化の一因になっているとも考えられる。

米飯主体の日本食文化が小麦パン主体の西洋式食文化になった。魚食よりも肉食が多くなり、肥満、高脂血症、動脈硬化症が増加した。

外国産の小麦、牛肉が大量に輸入され、日本農業が衰退した。

物を包む風呂敷文化の消失はビニール袋の氾濫、公害につながった。

家庭や手術室での靴、スリッパの履き替え、食事前の手洗い、お手拭き、最近ではトイレのウォッシュレットなど、日本人の清潔好きは世界に誇れるものである。

大震災で日本人が示した共助の精神、暴動や窃盗が殆ど見られなかったことは世界が絶賛している。

これら失った多くの日本古来のよき文化は保存し、世界に向けて発信すべき時代に来ている。

日本の仏教、神道、聖徳太子の 17 条憲法にある和の精神などは世界平和にとってかけがえのないものと思われる。一神教であるキリスト教、イスラム教との違いは、仏教、神道は多くの神仏を信仰の対象としていることである（橋爪大三郎×大澤真幸氏『ふしぎなキリスト教』講談社現代新書より）。

最後につけ加えたいのは以前にも書いたが医の中の蛙にならないように、外国旅行をし、または滞在し、上辺だけでなくもっと深く世界の実情を知ることが大切である。今起こっている中東でのテロの自爆攻撃や、北朝鮮の軍事優先は、かつての日本が行ってきたことであるということも知らねばならない。